

富士山

石川丈山

仙客来り遊ぶ
雲外の巔

神竜棲み老ゆ
洞中の淵

雪は
皷素の如く
煙は
柄の如し

白扇倒
懸了
東海の天

【作者】石川丈山（一五八三〜一六七二年）江戸初期の徳川家藩士・漢詩人。愛知県碧海郡に生まれる。人柄は勇猛だが

読書・書道・茶道・築庭などの風雅も好んだ。大坂夏の陣で殊勲を立てようと一人出陣し、敵將2名を斬ったが、出陣禁止令に背いた罪で謹慎させられた。これがもとで武士を捨て全国を漫遊した。三十歳のころである。その間、諸大名から出仕の要請があったが固辞し続けた。晩年の住居は「詩仙堂」と名づけられ、今なお京都に保存されている。享年九十歳。

【語釈】*仙 客… 仙人 不老不死の術を体得した人 霞や露を食い空を飛ぶという。 *神 龍… 風雲を起こすといわれる想像上の

動物 *皷 素… 白い練り絹 *白 扇… 白地のままで書画の書かれていない扇

【通釈】仙人が来て遊ぶといわれる神聖な富士山の頂きは、雲を突き抜けて高くそびえている。山頂にある洞窟の中の淵には、神龍が年久しく栖んでいると伝えられている。山頂あたりは純白の雪に覆われ、ちょうど白絹（しらぎぬ）を張ったよう、立ち昇る噴煙は、その扇の柄のように見える。まるで東海の大空に白扇が逆さまにかかっているようだ。